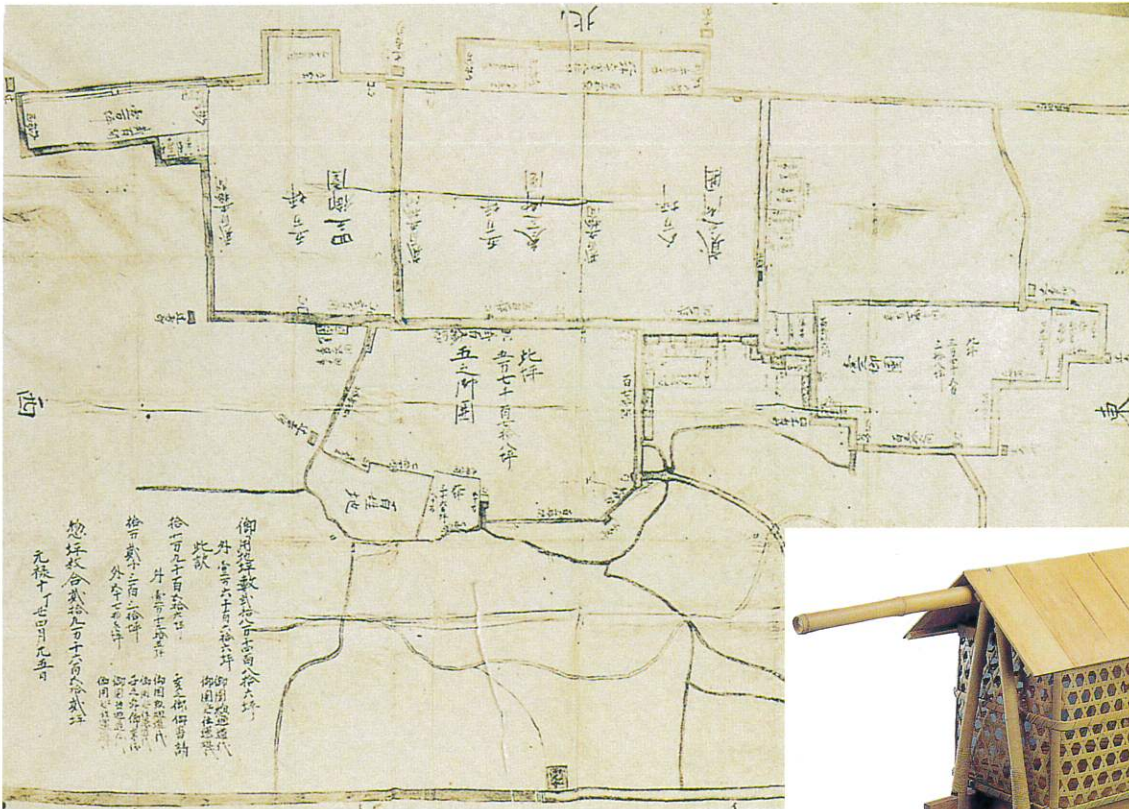


しのみ



御園平面図（元禄10年—1697）



犬駕籠（推定復元模型）

再発見、中野の歴史と民俗

館長 中村茂男

日々移り変わる街並み、昨日歩いたあの通りの様子が今日と変わっていることに気づくことがあります。JR中野駅の北西、旧警察大学校跡地周辺も新たな街並みとして生まれ変わろうとしています。この地は明治三十年から昭和二十年まで軍事施設があり陸軍中野学校も設置されていました。さらに遡ると江戸幕府五代将軍綱吉が一連の生き物愛護の政策「生類憐みの令」により「御園」が設けられた場所でもあります。区内を見渡してもその場所ごとに人々が暮らしてきた足跡、歴史が刻まれています。その時代ごとに生活から生まれた風習や風俗があります。当館の常設展示室では原始からの中野の歴史をわかりやすく展示しています。また、他の展示室でも館収蔵の品々をテーマごとに展示しています。日々の生活に追われている現代の人々に、忘れがちになってしまう中野の歴史と民俗を再発見できる憩いの場所が当館の役割でもあります。

文化財よもやま話

中野の農業と農具

中野区20戸・杉並区127戸・練馬区372戸・板橋区188戸…。これは平成17年の国勢調査による各区の農家数です。調査年からさらに5年がたっているため数は変わっているかもしれませんが、いま区内の農家は鷺宮地域に数えるほどしか残っていません。

現在では、住宅地・商業地としての役割の方が大きい中野区ですが、かつて明治・大正時代までは住民のほとんどが農業で生計をたてており、青梅街道付近の商業地を除けば畑や田んぼが広がる東京近郊の重要な農業地域でした。関東ローム層の影響で田んぼよりも畑の方が多く、麦などの穀物のほかに、大根・なす・いも等の野菜類や、植木・カーネーション・柿・茶なども多く生産されていました。しかし、大正後期から昭和にかけて農業従事者は減り工業従事者の方が多くなります。関東大震災後には下町から移り住む人も増え、住宅地の拡大化も進み区内の農業は徐々に縮小されていきました。

こうして、住宅地・商業地へと変貌を遂げた中野ですが、かつて農業地域だったことを裏付ける資料としてたくさんの農具が当館に保管されています。機械化以前の農具がほとんどで、夏休み中の「農具展」でその一部を公開しました。鍬や鋤だけでも何十点もありかなり使い込まれた形跡が残っています。当時の苛酷な農作業の苦労の後がうかがえますが、どの農具もとても丁寧に作られており、今でも問題なく使えるものばかりでした。脱穀のための唐箕や万石、牛馬を使って土を耕す犁、ムシロ編み機やくるり棒など複雑なつくりのものも多く、資料館に寄贈されてから何十年も経っているものもあります。今後も、区内で使われていた農具などありましたら是非当館へご連絡下さい。



最近の寄贈品から「棹ばかり」

大地に眠る歴史

中野区の遺跡(9)

弥生時代のあとは古墳時代になりますが、中野区では古墳時代前期の遺跡は、ほとんど発見されていません。弥生時代後期の広町遺跡、平和の森・新井三丁目遺跡など、あれほど繁栄した集落はいったいどこへ行ってしまったのでしょうか。今のところ解明されていない謎です。

区内に再び遺跡が認められ始めるのは、それから約百数十年後の古墳時代後期・5世紀末以降になってからです。

古墳時代とは成長した指導者が盛土を設けた墓、古墳を築造する時代です。



遠藤山遺跡航空写真(上が南側・下が北側)

(右側(西側)が上高田図書館、左側(東側)が三井墓地)中央基礎跡の周りの周溝が2号墳・右側の周溝が1号墳・左側木立ちに半分隠れて3号墳が見える。

区内では上高田五丁目15番の遠藤山遺跡で3基の古墳が発見されています。径約12~14mの円墳で墳丘はすでに削り取られており埋葬施設はありませんでしたが、古墳の周りの溝(周溝)が発見されています。いずれも西側周溝の一部が掘り残されて陸橋のようにになっているのが特徴です。この両側の溝の底からは土器が出土しており、お葬式のお供えに用いられていたものが、溝内に転がり落ちたものと考えられます。これらの土器から3基の古墳は5世紀末から6世紀前半までに造られたもので、上高田地域を治める3代にわたる小豪族の墓であることが判明しました。これらの豪族の本拠地である集落遺跡はいまのところ発見されていませんが、遺跡の南側、上高田5丁目のどこかにあることが予想されます。(つづく)

古文書つづり

言われて初めて 思い出す

さがしていけば毎日何らかの記念日であるのと同様、毎年何らかの記念年にあたります。今年なら平城遷都1300年を筆頭に、「紫式部日記」成立（およそ）千年、あるいは『遠野物語』刊行百年といったものが有名どころでしょうか。こうした和やかに語れるものの一方、取り上げる折ちょっと心がまえが必要な記念年もあります。2010年は「韓国併合および大逆事件から百年」です。

極めて乱暴にまとめますと、この数年前より軍事力で圧迫して国家の権限を段階的に奪い、ついに国そのものの存在を否定したのが韓国併合で、政府にとって好ましくない意見を封じるため大規模な思想弾圧として演出したのが大逆事件です。自分がされて嫌なことを他人にははいけませんという躰や、賛同できない意見であっても暴力で黙らせないという自由主義の初歩など、欠けるところ多大な権力はずいぶん無茶をするものです。

とはいえこれは現在からの視点であり、当時の人々は領土の拡張や不穏状態の解消を単純に喜んで受け入れていたようです。暗澹たる思いを抱いた石川啄木や永井荷風・森鷗外などは少数派。実際、ここに挙げた日本「国内」を巡るスゴロクは樺太・台湾などもマスになっており、上がりは京城（=ソウル）です。そのマスは当然ながらおめでたい感じの絵になっていて当時の多数派の気分を代弁していますが、一方の当事者である圧伏させられた人々はどう感じていたことでしょうか。

全ての事柄を年中熟慮するのは無理なこと。しかし、記念日・記念年はよいきっかけになり、その時ばかりはいろいろ考えたりします。



▲家族旅行日本名所雙六。右は「上り」の拡大。こういった玩具も歴史を語る史料となりうる。

2010れきみん夏休みイベントを終えて

毎年恒例の全館上げての一大イベント、れきみん夏休みイベントの3つの柱は、「学習」「物作り」「体験」である。毎年、自発的に学習してもらおうと、“資料館を見学して研究テーマを見つけよう！”“中野の歴史をまとめよう！”といった資料や小学生向けの書籍を置いた自由に学習できるスペースを設けている。また学習相談日を設定し、質問に答えたり、学習の手助けを行っている。しかし、残念なことに利用者はあまり多くなかった。そこで今年は、3つの柱を全て盛り込んだイベント作りを試みた。

もちろん「物作り」も、ただ何かを作るだけの催しではない。例えば「小田原ちょうちん作り」なら、小田原提灯の歴史や特徴を説明してから、作り始める。伝統的な技法を学べるよう工程も忠実に再現し、材料も出来上がりもなるべく本物に近づくように工夫している。

「むかし体験①～④」にも学習と物作りの要素を加えた。まずむかし体験①“縄文土器研究・火おこし・編布”で、縄文土器に文様を試したり、

土器の破片を繋ぎ合わせたり、大昔の暮らしを学ぶ。②“タイガー計算器で計算・ガリ版印刷ではがき作り”で、技術の進歩を学ぶ。③“七輪で炭おこし・火のしでしわのぼし・ほうろくで煎る・むかしのおはなし”で、体験者の話を交えて、道具の移り変わりを学ぶ。④“洗濯板で洗濯・茶ガラでお掃除・障子張り・子どもが作ったおやつ・はたき作り”で、日々の暮らしを学ぶ。2時間で幾つものメニューをこなすのは大変だったが、その甲斐あって、自由研究にすため、熱心に記録し、質問したり、本で調べるといった姿もみられた。

イベント数19、募集定員のべ249名に対し応募者数のべ560名、参加者数のべ198名であった。こうして私達最後のれきみん夏休みイベントが終わった。10年かかってやっと定着したようだ。来年以降もこうあって欲しいものである。



事業報告

各種事業経過

2010年4月～2010年9月

事業名	内 容	期間
企 画 展	「旅は色刷り 世を学べ」 「農具展」	4/27～6/3 7/24～8/29
特 別 展	「れきみん写真館」 「昭和の便利な暮らし展」 「井上円了展」	4/7～5/15 6/12～8/22 9/4～10/3
夏休み事業	「あんぎん」 7/27・8/12・8/26 「学習相談」 7/30・8/6・13 「火おこし」 7/30・8/20・27 「土器作り」 7/31 「むかし体験」 8/3・12・19・24 「張り子作り」 8/4 「小田原ちょうちん作り」 8/5 「押し絵作り」 8/10 「勾玉作り」 8/21 「切り絵遊び」 8/25	
古文書講座	講師：笠原綾氏（日本放送協会学園専任講師）	9/11、18、25
公 開 事 業	春季「山崎家茶室書院公開」	4/27～5/9
埋蔵文化財 対 応	江古田二丁目12番民有地立会調査 江原町二丁目31番民有地立会調査 江古田三丁目14番民有地試掘調査 本町三丁目15番民有地試掘調査 南台三丁目6番民有地立会調査 江古田三丁目9番民有地試掘調査 沼袋三丁目17番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）	4/14・15 5/11 5/25・26 6/1 6/28 7/1 9/28
そ の 他	小学校3・4・6学年総合学習見学16校	4月～9月

寄贈資料一覧

2010年2月～2010年7月

敬称略受入順

資 料 名	点数	氏 名
雛道具	一括	吉田里香
屏風ほか	一括	橋場公会堂
防空救急箱	1	加瀬重信
旗ほか	3	下條文子
掛軸	1	松田正明
へら台ほか	2	小川京子
炭びつほか	2	早松菊代

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

入館状況

2010年3月～2010年8月（延べ153日間）（人）

一 般	団 体	学校教育	合 計
16,311	430	691	17,432

発行年月日 2010年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03 (3319) 9221 FAX 03 (3319) 9119